

ひとりはみんなのために！ みんなはひとりのために！

東日本大震災支援ニュース いのちと心をつなごう

No. 5

福井県医療生活協同組合 2011/4/20



つるが 晴ればれへ取材！

組織部 番中

現在、つるが生協診療所隣に組合員ルーム「晴ればれ」があります。そこはおしゃべり喫茶として月曜日から水曜日まで開放し、時には手芸の班会も行われています。今回、こちらを利用されている方から原発に対する思いや震災支援への関わりについて聞いてきました。

原発への思い



東日本大震災での原発事故があったにも関わらず、原発の安全性の見直しやもんじゅの稼動、そして原発増設計画は続行となっている。合わせて、今回の県会議員選挙でも原発推進派の人が当選し、敦賀商工会議所が産業振興として原発を推進していることが浮き彫りとなった。市民は福島県の現状を見て、自分の置かれた立場に恐怖を感じてはいるが表立って「原発反対」とは言いにくい。それは、家族・親族がなにかしら原発に関わっているからだそうです。海外では原発反対のデモが起つたり、自国の原発の見直しと議論が高まっているにも関わらず、福井県は原発依存の体質を変えようとしていない。原発が14基ある県として、今一度目先の利益ではなく、私たちの子どもや孫に豊かな自然を残せるよう、立ち止まって考える時期にあるのではないでしょうか。

東日本大震災の長期的な支援を考え

嶺南ブロックの宗宮理事は、東日本大震災復興の手立ての一つである義援金を長期間続けていきたいと考えています。組合員ルーム「晴ればれ」で、みんなが使える・食べられるものを販売し、その売り上げの一部もしくは全額を寄付したいとし、この案を運営委員会で決定したいとおっしゃっていました。

色々な支援の形があると思います。是非、自分たちのブロック・支部・班・などでなにができるか語り合ってみませんか？何か、「これならできる」っていうものが思いつくかもしれません。

震災支援報告会！

これまで全日本民医連は、被災地入りした医師・看護師らの数は震災から1ヶ月で1840名、赤十字社について、全国第2位となっています。（読売新聞調べ）

4月20日午後、4月に入ってから震災支援にいった我々福井民医連のチームによる報告会が行われました。現在、現地の状況も変わり医療支援から生活支援へと移行していますが、慢性疾患をもつ人へのケア（薬の服用など）が充分ではない点がまだまだあるようです。被害にあった施設の復旧として、海岸近くにあった松島海岸診療所は3月28日に診療を開始するようになりました。中心となっている坂総合病院については、今も救急車が入ったりなどして毎日20前後のベットが日々動いています。また2度目の支援活動に参加をした職員からは、様々な光景・民医連の活動から着実に復興へ歩んでいると実感したとの意見もありました。

医療生協として、これからも支援チームを現地へ派遣します。是非、皆様の応援を宜しくお願ひ致します。

ひろがる支援の輪(わ)



組合員さんからのあたたかい義援金！

200万円近い額にのぼっています。本当にありがとうございます。